Story 1

避難する！となった時の状況は
Aさんの場合
3/12
富岡町
原発事故による強制避難
とりあえず避難しなきゃ！
地震で家はぐちゃぐちゃ。着の身着のまま
山内村へ避難を！
大渋滞。
Bさんの場合
白河市でも放射線量は上昇。
母としては学校の対応が信用できない。
ピリ
食べ物の安全性は?!
ピリ
安全な所へ!!
ピリ
お母さんのピリピリがなくなるなら遠くに避難も、ありかも
Cさんの場合
周囲の子が少しずつ避難。
あ…私も引っ越すんだな
不安はある。でも制限のある生活もツライ
Dさんの場合
ずっと続く余震。
グラグラ
もうイヤー!!
地震のない世界に行けるなら引っ越すー!!!
怖すぎる!!!

避難時の状況は？

震災により自宅や親が職場を失うなどして避難をした家族もあれば、原発事故による避難指示だけではなく、子どもへの健康被害の不安から、区域外でも避難を選択した子育て世代がたくさんありました。当時小さかった子ほど、放射性物質の危険性について理解が難しく、「何で避難するんだろう」と思っていたという声もあります。

- 親の転職が愛知に決まり、2011 年 7 月に引っ越しをした。それまでの何ヶ月かは、目まぐるしく人生がぐらぐらした。
（宮城県石巻市：当時小学 6 年生）

- 最初は母から「ひと月で帰れる」と言われていて、その後「一年で帰れる」と、帰れず延びていった。何で帰れないんだという気持ちが強くて、当時は「嘘をついてる」と親に怒っていた。小学 6 年生で避難して、こっちでは知らない同級生も多いから、思い入れがない卒業式になった。
（福島県いわき市：当時小学 6 年生）

- 原発がどういうものかはよくわからなかったけど、ペンダントみたいなもの※は常につけていたり、牛乳を飲まなかったりしていた。福島にいると安全でないと、両親が避難するため仕事や家を探して、家の下見に三重に行った時は旅行気分で楽しかった。2011 年 10 月に引っ越したけど、従兄弟や小学校の友だちはほとんど郡山に残っていた。
（福島県郡山市：当時小学 3 年生、5 年生）

※ ガラスバッジ：外部被ばく線量測定のための個人線量計

Story 2

避難先の住まい、なかなか落ちつかず…
ひとまず愛知県の親戚のおばあちゃん宅に避難
お母さん気を遣って大変そう…
この生活はすぐに限界に…。
知人の紹介で一軒家を借りる！
…が、ボロボロの空家だった。
ゴミ屋敷じゃーん!!
避難も大変だったのに、毎日そうじ。
ストレス…！
のちに住宅支援があることを知り、マンションに引越し。
初めから知っていたら…!!
でも、それぞれの都合で出ざるを得なかったり、支援終了でまた引越し…
え？出ていってほしいって？？
引越しもお金かかるのよね…
引越貧乏
受験なのに!! 落ちつかない！
気持ちも不安定に。
やっと慣れたと思ったのに…
えっまた引っ越すの!?

避難先の住まいは？

今後どうなるのかの不安を抱えながら、親戚や知人宅へ一時的に身を寄せた家族もたくさんありました。幼くて遊び盛りの子どもであっても、居候先に気を遣って大変そうにしていた親の様子を覚えている人は多く、様々な不安を感じたり、引っ越しが複数回に及んだりした世帯もあり、子どもたちへの影響も大きかったと思われます。

- 被災者住宅の期限で引っ越ししなければいけなくなり、それが高校受験のタイミングと重なって大変だった。
（宮城県女川町：当時中学３年生）

- 富岡は田舎だったので、一軒家暮らしで外でもたくさん遊べたけど、名古屋に来てからは公園でしか遊べない。集合住宅に住むことになって、「下に住んでいる人がいるからうるさくしないように」と言われたし、自由度が減ったと思う。
（福島県富岡町：当時小学５年生）

- 母の愛知の友人が「避難しておいで」と言ってくれて居候させてもらったが、仕事の関係で親だけ福島に戻った時期があり、その間はめちゃくちゃ長く感じた。居候先にも子どもがいて、「知らない子が来た」という雰囲気。よくしてもらったけど、しんどかった。
（福島県国見町：当時小学３年生）

- 岐阜に来てからも、小学3年と6年に転校した。6年生の時は、友だちと手紙のやり取りなどができたけど、3年生の時はわからなかったので仲の良い友達と連絡がとれなくなってしまってとても悲しかった。
（福島県国見町：当時小学３～６年生）

Story 3

家族関係に影響大！

避難による家族関係の変化

震災前は、祖父母やペットと同居し、頼りになる親戚が近所にいる暮らしがバラバラになりました。仕事等の関係で離れられない父親を残し、「母子避難」した世帯も多く、家族関係にも大きな影響を及ぼしました。一時的に子どものみが県外の親戚や知人に預けられ、親と離れての避難生活に強い不安や寂しさを感じていた人もいます。

- 福島の祖母は優しくて、可愛がってくれていた。祖母も寂しい気持ちがあったと思うし、私が「福島に帰りたい」と言っている時には胸を痛めていた。
（福島県白河市：当時中学１年生）

- 居候生活から、別の住まいにお母さんと私で住み始めた時、まだまだ原発のニュースも多かったし、このまま愛知にずっといるんだなと感じた。親戚も友だちもみんな福島にいたから、ずっと帰りたかった。お母さんもそうだったと思うけど、私のために避難しているから、我慢と諦めがあったと思う。（福島県国見町：当時小学３年生）

- 福島では自営業で、家にはいつも家族の誰かがいた。祖父母は福島に残り、三重に引っ越してきた後、両親は仕事が大変そうで、私たち姉妹だけで留守番することが多くなってすごく不安だった。
（福島県郡山市：当時小学３年生、５年生）

- 仲の良かったひいおばあちゃんが放射線量の高い山の方に住んでいたため、なかなか行けないまま愛知に来た。その後、亡くなってしまって、お葬式でしか会えなくて悲しかった。（福島県福島市：当時小学５年生くらい）

Story 4

不登校が怖くて無理をしたら…

避難先での新しい学校への不安

一般的に、転校による環境や人間関係の変化は、心への影響が大きいと言われています。ましてや今回は心の整理が追い付かず、原発関連のいじめのニュース等もあって、いっそう不安や戸惑いを感じた子どもが多かったと思います。進路や将来の目標にも大きな影響を及ぼしました。こうした子どもを受け入れる学校等では、一人ひとりに応じた細やかな配慮や柔軟な対応が必要とされます。

- 転校初日の挨拶で、親から「愛知の人が助けてくれたからお礼を言うように」と言われており、「支援物資が愛知からも届いた。ありがとう」とあいさつした。担任が職員室で話したらしく、いろんな先生が話しかけてくれて優しいなと思っていた。（宮城県石巻市：当時小学６年生）

- 小学校２年の途中から愛知の学校に転校。話しかけてくれる子は多かったけど、人見知りで、なかなか楽しい感じで行くことはできなかった。登校前に「今日は行けません」と泣いたりしていた。福島からきたことをみんな知っていて、自分が知らない子まで自分のことを知っているのが嫌だった。（福島県福島市：当時小学２年生）

- 避難していきなり４月から知らない小学校に放り込まれると思うと、「本当に行くの？」と不安で泣いた記憶がある。転校先の校長先生が家まで声をかけにきてくれるなど、いろいろ配慮してくれていたけど、当時は感謝する気持ちにはなれなくて、行きたくないという気持ちが大きかった。今思えばすごいことをしてくれていたんだなと感じる。（福島県富岡町：当時小学５年生）

Story 5

性格が変わった!?

避難先での子どもたちの順応性

東海地域に来た当初は、方言や文化、気候の違いに戸惑ったという声は多く、言葉のニュアンスの違いで新しい友だちとトラブルになったこともありました。親も大変な状況であるため、避難先での不安やトラブルを口にしなかったりして、本人も気付かないうちに大きなストレスを抱えました。一方で、大人よりも柔軟性が高いため、早くに馴染むことができ、あまり大変ではなかったという声もあります。

- 名古屋の方言がすごくきつく感じて怖かった。気性も違ったので慣れなくて、学校の友だちにも心が開けなかった。お母さんも避難生活で精神的にもかなり辛い状態で、悩みを言うことはできず、気丈に振る舞うしかなかった。
（福島県白河市：当時中学１年生）

- 周りには「大丈夫」と言っていたけど、すごいストレスだったかもしれない。ニキビができたり、暴飲暴食や噛み癖がでる頻度が増えたりしていた。親は仕事探しで大変だった思うし、心配をさせたくなかった。本当に自分では大丈夫と思っていたので、ストレスに気づかなかった。
（福島県いわき市：当時小学６年生）

- おとなしい性格で三重の生活に慣れるのに時間がかかり、福島が恋しくて夢にもでてくるくらいだった。
（福島県郡山市：当時小学５年生）

- 方言の違いで、福島では普通に言っていた言葉が、愛知では違うニュアンスで伝わってしまい、友だちと喧嘩になってしまって。その言い方はダメなんだと感じたことがある。
（福島県国見市：当時小学３年生）